

| | | | | | |
|-----|-----------------|------|------|------|-----|
| 科目 | 内部障害理学療法学 | 担当 | 林 久恵 | 履修学年 | 3年 |
| 時間数 | 90分×時限×16回(週1回) | 履修区分 | 必修 | 単位数 | 2単位 |

【授業目標・到達目標】

内部障害理学療法学では、基本的な内部障害系疾患の病態、理学療法評価について学修する。また重複障害のとらえ方や治療目標の設定に必要な臨床思考過程について理解し、疾患の重症度・加齢に伴う変化・リスク管理を考慮した実践的な理学療法プログラムを立案できることを到達目標とする。

【履修注意】

ノートおよびレジュメを綴じるファイルを持参してください。

【評価方法】

筆記試験、小テスト、提出課題にて評価する。グループワーク、出席および発表準備状況も考慮する。

【試験について】

筆記試験 再試験対象者の条件： 定期試験の点数が60点未満かつ40点以上の者

【予習・復習】

内部障害の病態を理解するためには、解剖学・生理学の知識が不可欠です。各疾患に関連する臓器の正常な機能について前日までに自習し(45分以上)、受講してください。

【教科書】

書籍名：内部障害理学療法学テキスト改訂第3版 著者：山崎裕司、川俣幹雄、丸岡弘(編集) 出版社：南江堂

【参考書】

書籍名：心臓病の病態生理—ハーバード大学テキスト 著者：川名正敏(訳・著)[原著者Leonard S. Lilly]

出版社：株式会社メディカル・サイエンス・インターナショナル

書籍名：内部障害理学療法学 循環・代謝 編集者：石川朗、木村雅彦 出版社：中山書店

書籍名：リハビリテーションの効果を最大限に引き出すコツ 編集者：山崎裕司、山本淳一 出版社：三輪書店

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

| 回数 | 項目 | 内容 |
|----|-----------------------|----------------------------------------|
| 1 | 内部障害理学療法学総論 | 内部障害理学療法学総論循環器系の障害と運動制限 |
| 2 | 循環器系の障害と運動耐容能 | 心ポンプ機能運動耐容能 |
| 3 | 循環器疾患の理解と理学療法① | 心筋梗塞急性期の理学療法心筋梗塞 回復期・維持期の理学療法(循環器疾患合併) |
| 4 | 循環器疾患の理解と理学療法② | 心不全の理学療法心電図所見の捉え方(虚血・不整脈) |
| 5 | 動脈疾患の理解と理学療法 | 大動脈疾患の理学療法動脈系末梢循環障害の理学療法 |
| 6 | 末梢循環障害の理学療法、換気障害と低酸素 | 静脈リンパ系末梢循環障害の理学療法運動と呼吸(換気障害と低酸素) |
| 7 | 呼吸器疾患の理解と理学療法① | 呼吸器疾患の治療酸素化能・換気能 |
| 8 | 呼吸器疾患評価、術後の理学療法 | 呼吸困難・ADL QOL評価開胸術後の理学療法 |
| 9 | 代謝性疾患の理解と理学療法① | 運動と代謝糖尿病の治療 |
| 10 | 代謝性疾患の理解と理学療法② | 糖尿病の障害糖尿病の理学療法(軽症例) |
| 11 | 糖尿病足病変の理学療法、患者教育と行動変容 | 糖尿病の理学療法(重症例)患者教育と行動変容 |
| 12 | がんの治療と理学療法 | がんの治療がんの理学療法 |
| 13 | 腎不全患者に対する理学療法 | 特別講義 |
| 14 | 透析患者に対する理学療法 | 特別講義 |
| 15 | 症例検討 | 内部障害併存例の評価と問題点の検出、理学療法プログラムの立案、リスク管理 |
| 16 | 期末試験 | 択一式問題の実施 |